

取り組みの過程を思い浮かべて

子どもたちは、このところ毎日のように、「運動会の司会の練習をするので、聞いてください。」と言いながら、「司会名人カード」を片手に職員室までやってきます。まずは、自分が日々、どれほど司会の練習を積み重ねてきたか、その回数を数えるところから始まります。そのカードには、先生たちに聞いてもらえた印として、イラストが描かれていたり、シールが貼られていたりするので、それを毎回数えては、教えてくれるのです。

上手に言えたことを実感して、終わるや否や「もう一回やりたい。」と申し出る子もいます。司会用の台への上がり方や降り方、そしてお辞儀も繰り返す度に上手になっています。これまでやってきたことを振り返る機会にもなっていて、どの子も誇らしげな表情が素敵です。これは、子どもたちが、やりたいと思う気持ち（意欲）をもち、自分から進んで（自主性）聞いてもらえる相手を探し（行動力）、どうしてほしいか伝え（交渉力）、褒められる喜びを感じ（満足感）、頑張った自分を誇らしく思い（自己肯定感）、成長した自分を実感しているのです。

この1枚のカードがきっかけになっていますが、隣で頑張っている友達を見て影響を受けたり、一緒に行こうと誘ってくれる友達に支えられたりしていることも、大きな原動力になっています。また、司会の練習をしたあと、カードの記入を待つ間、今頑張っていることや楽しみにしていることを話す子もいます。様々な人と会話を重ねていくことも、大切な経験の一つになっています。担任だけでなく、園にいる職員と会話を交わしながら、自分のことをしっかりと見てもらえていることで安心して自分を表すことにもつながっています。運動会当日は、子どもたちがこれまで取り組んできた過程を思い浮かべながら、成長を見付ける日にしていただければと思います。

運動会の思い出

息子たちが幼い頃の運動会、一緒にダンスを踊ったことは、今でも大切な思い出です。その当時は、毎日が目の回るような忙しさでしたが、当日は、ゆったりと子どもの姿を微笑ましく見ていたことを思い出します。当日だけでなく、運動会が終わったあともしばらくは、寝る前に一踊りすることが日課のようになっていました。子どもにとっては、運動会がゴールではないのです。面白いと思ったことを、飽きるまで繰り返す子どもの要求に、全て応えるのはなかなか大変なことですが、少しは付き合っただけで繰り返して踊ったおかげで、今でも当時の子どもの姿を思い浮かべることができたのかもしれない。

さて、今年の運動会競技の「昆虫玉投げ」を見ながら、息子が小学1年生の運動会当日のことも思い出しました。運動が大好きな息子ですが、当日の朝、「運動会に行きたくない。」と、大泣きしたのです。理由を聞くと、「玉入れの途中で、お尻を振って踊るのが嫌だ。」と言うのです。ダンスと玉入れを交互に行う競技で、今回の「昆虫玉投げ」のような内容です。私は、その日は仕事があったため、息子よりも先に家を出なければならず、とっさに、「運動会で楽しいことは何？」と聞きました。「大玉送り」と答える息子に、「大玉送りのことだけ考えながら行きなさい！」とだけ伝えて出かけました。仕事を終えてから運動会に駆けつけると、満面の笑みでお尻を振りながら踊っている息子を見付けました。家でよくよく話を聞いてみると、「前日に競技中の隊形移動が変更になり、うまくできるか心配だった。」とのことでした。よく聞きもせずを送り出してしまいましたが、「大丈夫。楽しいことも、きっとある！」という母の気持ちは、伝わったようでした。少し苦手なことや心配なことがあっても、「何とかなるさ」と明るく送り出すことは、大切なのだと感じています。

さあ、いよいよ明日は、ふくろ幼稚園の運動会です。保護者の皆様も童心にかえって一緒に楽しみましょう！今回の運動会の経験が、皆様の心に温かい思い出として残っていきますように、願っています。